

【自宅で留守番中の子どもにおける事故防止について】

自宅で留守番中の子どもにおける事故を防止する目的で、過去の救急搬送に係る統計データと事例を公表し、注意喚起を図ります。

1 子どもの「やけど」事故の発生状況

昼食時など、子どもが一人で簡単にお湯で調理できるカップ麺やインスタント食品、または作り置きものを温める際に、「やけど」を負う危険があり注意が必要です。

2009年から2019年の間に郡山消防本部管内で、「やけど」により救急搬送された方を年齢区分別にみると、全体の約3割が14歳以下の子どもとなっています。（図1）

また、そのうちの8割以上が「自宅等」で発生しています。（図2）

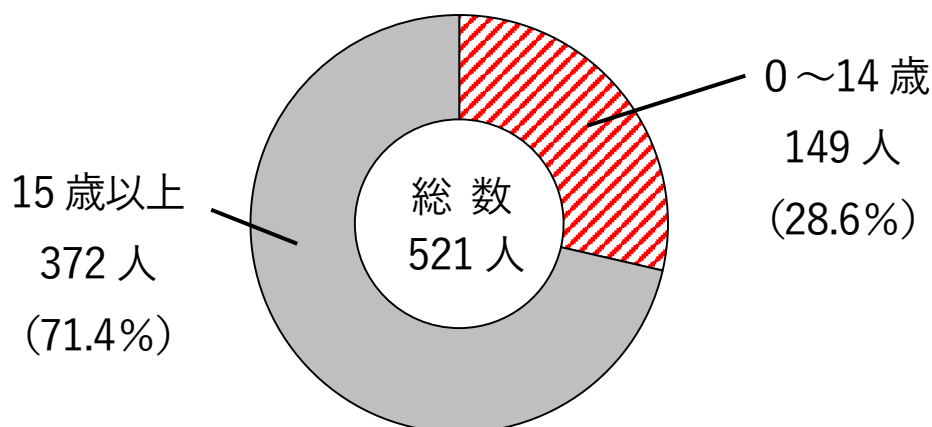


図1 「やけど」による年齢別救急搬送人（2009年～2019年）

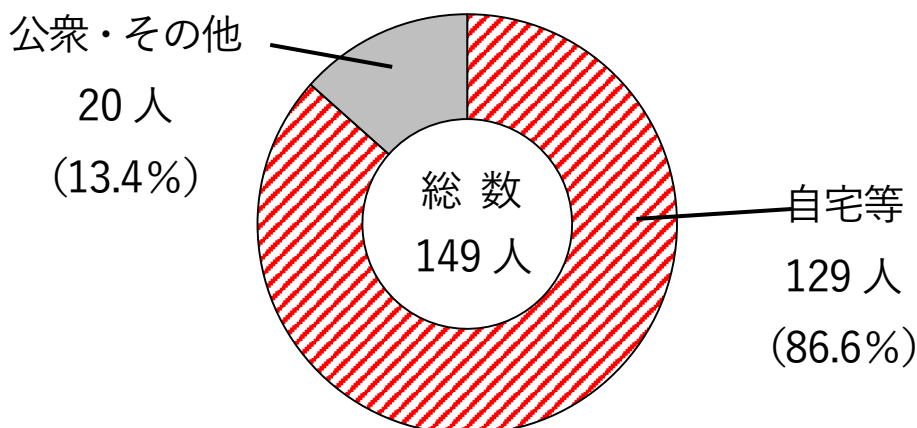


図2 0～14歳の「やけど」発生場所別救急搬送人員（2009年～2019年）

2 子どもの「やけど」事件事例

事例1：自宅でカップラーメンにお湯を注いでいたところ、誤ってこぼし右足大腿部から膝にかけてやけどを負った。（12歳 軽症）

事例2：カップラーメンを食べていたところ誤って腹部にこぼしやけどを負った。（3歳 軽症）

事例3：食事中、みそ汁を大腿部にこぼしやけどを負った。（12歳 中等症）

事例4：熱湯が入った電子ケトルのコードに足をひっかけ倒し、顔面にやけどを負った。（7歳 軽症）

3 子どもの電子レンジでの事件事例

事例1：電子レンジで卵を加熱した際、電子レンジを開けたところ卵が爆発してやけどを負った。（12歳 軽症）

事例2：アルミの包装に入れたままの冷凍食品を電子レンジで温めたところ、異臭がしたので中身を見たら、冷凍食品から炎が出ているのを発見した。（10歳 怪我なし）

事例3：コロッケパンを電子レンジで加熱した際、時間設定を誤り長時間（時間不明）加熱してしまったため、炭化し煙が発生した。（10歳 怪我なし）

事例4：菓子作り中、電子レンジで温めた材料に水を混ぜたところ、材料が顔面にはじけ飛びやけどを負った。（14歳 軽症）

4 注意のポイント

(1) 熱湯を扱う場合は十分注意しましょう

(2) ポットや電子レンジの正しい扱い方法を子どもに理解させたうえで使用させましょう

(3) 電子レンジで冷凍食品などを加熱する場合、包装に表示されている加熱時間を守りましょう

(4) アルミの包装は必ず外してから電子レンジで加熱しましょう

(5) 電子レンジで加熱中はその場を離れない